

風と心

発行 岩手県立胆沢病院
編集 広報委員会

〒023-0864
岩手県奥州市水沢区
字龍ヶ馬場61
TEL 0197-24-4121
FAX 0197-24-8194

診療のご案内 「看護外来」ってなに？

退院後や通院中に、患者さんの生活を調整するには、画一的ではない、個々のライフスタイルに合わせた指導が必要となっています。患者さんのために時間を確保して、専門的な支援を提供する「看護外来」を当院では4月から運用開始いたしました。

この「看護外来」は、患者さんを診察した医師の指示によって専門の認定看護師やセラピストがケアいたします。



病気によって地域での療養生活や社会生活に支障をきたしている患者さんやご家族に対して、少しでも生活が円滑におくれるようにサポートいたします。

「看護外来」は、個々の患者さんやそのご家族の状況に応じた専門領域における診療の補助や療養の世話を提供する看護師主導の外来です。

医師や他職種と連携して症状の改善や自己管理の支援をお手伝いしております。

「看護外来」についての詳細は、医師や外来の看護師へ、お気軽にお問い合わせください。

■看護外来のご案内

月	火	水	木	金
ストーマ・失禁外来 10:00~12:00 14:00~16:00	スキンケア外来 10:00~12:00	ストーマ・失禁外来 10:00~12:00 14:00~16:00		ストーマ・失禁外来 10:00~12:00 14:00~16:00
	リンパ浮腫外来 13:00~16:00	リンパ浮腫外来 9:00~12:00 13:00~16:00	リンパ浮腫外来 13:00~16:00	
		がん看護外来 10:00~12:00	呼吸器ケア外来 15:00~16:00	がん看護外来 10:00~12:00

■看護外来の種類と担当のご案内

看護外来の種類	主な内容
ストーマ・スキンケア・失禁外来	皮膚・排泄ケア認定看護師が、ストーマケアや褥瘡処置と予防の相談、失禁で悩んでいる方の相談に対応します。
リンパ浮腫外来	医療リンパドレナージセラピスト（看護師）が、むくみに対する苦痛の緩和や、むくみ予防の相談に対応します。
がん看護外来	緩和ケア認定看護師が、がん告知後の気持ちの整理のお手伝い、療養生活の相談に対応します。
呼吸器ケア外来	救急看護認定看護師が、慢性閉塞性肺疾患等の呼吸指導、在宅人工呼吸器装着患者さんの呼吸ケアの相談に対応します。

地域連携を前に 褥瘡ケア研修会を開催

地域の病院や医院、介護施設職員等を対象にした研修会は、六月十九日十七時三〇分から院内「大会議室」で開催されました。二十一施設から看護師、介護士、介護福祉士、介護支援専門員、福祉用具専門相談員等、三八名が参加しました。

胆沢病院皮膚科長の塚田全医師を講師に、「褥瘡局所療法」創傷のメカニズム」と題して、創傷治癒のしくみや褥瘡治療の基本を学びました。

水を保つこと、ばい菌へのバリアとなる皮膚の存在はとても大切なこと、褥瘡の出来やすい箇所の確認や使用するべき薬剤の特性を理解することが、とても大切であることなど、興味深い内容でした。



参加者からは、褥瘡を発生させない工夫や発生した場合の対応について質問が出され、注意すべきポイントや対応について実際の症例を紹介しながら分かり易く説明がありました。

この研修会は、一〇月まで四回予定されています。

【注】褥瘡…一般的に「床ずれ」



佐藤診療放射線技師長（前列左から2人目）とスタッフのみなさん

部署紹介

診療放射線科

診療放射線技師長 佐藤 正行

診療放射線科では、「放射線科医師1名、診療放射線技師16名、受付スタッフ5名で勤務しております。

主な業務は、X線等を用いて病気を診断するための画像を撮影し、読影することです。胸部や腹部、骨等の状態は、X線撮影装置で平面写真を撮ることで状態を観察します。

またCTやMRIでは、体の断面像を作成し、後処理を行うことで三次元画像を得ることが出来、より具体的な構造がわかります。

そのほかには放射線治療装置を用



いて、体内の深部にある癌を小さくするためのX線照射を行っております。

多くの方は、「放射線」という言葉を聞くと「危険」や「体に悪い」といった印象を持たれるかもしれませんが。確かに一度大量に被曝すると、放射線障害という様々な影響が体に現れます。しかし検査で用いる放射線は必要最小限の線量しか使っていないので、放射線障害が出る心配はありません。

皆さまに直接関わるのは撮影中の短い時間ですが、誠心誠意つとめていきますのでよろしくお願いいたします。

6月11日 がん患者・家族サロン



「がん患者・家族サロン」は、がん患者さんやご家族が集まり、交流や情報交換をする場で、毎月開催されています。

今月は、4名の参加があり、療養生活の工夫

についての話題を中心に情報交換が行われました。

治療開始から間もない状況で、「一人になると不安になる」「職場復帰したいけれどもできない」と心身ともに不調の話しをされた方に、他の参加者が自らの体験談で声を掛けていました。

焦らないこと、絶対大丈夫と前向きな言葉を発して言い聞かせること、考え方を改めて行動に移すことなど、治療や生活のモチベーションを高める工夫が大事であることが語り合われました。

治療に伴ったつらい状況を体験しているからこそ、お互いの言葉を素直に聞きながら受け入れている様子が伺えました。

参加者は、次回の開催日時を確認して散会しました。

対象：がん患者さん・そのご家族
開催日：毎月第2木曜日 14時～16時
場所：院内喫茶店 ジャマイ館
※参加希望の方は、連絡をお願いします。
担当：地域医療福祉連携室
TEL24-4121（内線1065・1158）

6月23日 医療情報コーナーイベント

がんの治療中でも「おいしく食べよう」をテーマにミニ勉強会が行われました。

6月23日午前9時30分から1階「医療情報コーナー」で開かれ、蛇口

真理子栄養サポートチーム専従管理栄養士・がん病態栄養専門管理栄養士から資料をテレビ画面に映して情報提供を行いました。

内容（テーマ）は、「化学療法中に食べやすい献立の紹介」と「栄養剤の試飲会」です。

勉強会では、吐き気・嘔吐の際の対応や食欲不振のときのおすすめメニューが紹介されました。そのほか市販の食材を上手に利用することもポイントの一つです。化学療法中には「味がしない」つらさが出る場合があります。ご家族を含め周囲の方がつらさを受け止め、食べられないプレッシャーを開放してあげることもとても大切です。

ミニ勉強会の後には、栄養剤の紹介・試飲会があり、飲料の種類や味の多さに驚きの様子でした。



【次回のイベント案内】

開催日：7月28日（火）9時～12時
場所：1階「医療情報コーナー」
内容：抗がん剤の副作用と対策